

平成 27 年度

福岡県移住者子弟留学報告書

---

2015 Exchange Students Program for  
Descendants of Immigrants from Fukuoka Prefecture

C o m p l e t i o n R e p o r t

Fukuoka International Exchange Foundation

公益財団法人福岡県国際交流センター

# 目次

---

02

高階 矢富 強 ジュリアノ (ブラジル福岡県人会)

国際医療福祉大学 福岡医療保健学部

08

平田 さゆり カレアンドラ (ブラジル福岡県人会)

九州産業大学 経済学部

12

北川 瞳 (パラグアイ福岡県人会)

国際医療福祉大学 福岡医療保健学部

16

グティエレス タナベ アレックス (ペルー福岡クラブ)

九州造形短期大学 造形芸術学科

21

緒方 翔 マルセロ (在ボリビア福岡県人会)

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

九州沖縄研究センター 筑後・久留米研究拠点

26

エルナンデス 吉開 順一 (メキシコ福岡県人会)

九州造形短期大学 造形芸術学科

31

寺本 英樹 (メキシコ福岡県人会)

福岡大学 商学部

35

江口 イネス マリア (アルゼンチン福岡県人会)

九州大学大学院 芸術工学府

39

松井 エリック 武士 (南加福岡県人会)

福岡工業大学短期大学部 ビジネス情報学科

43

プリビ エミリー ジョン (南加福岡県人会)

九州大学大学院 人間環境学府



ブラジル福岡県人会

高階 矢富 強 ジュリアノ

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部

## 最初に

僕は、ブラジル国から参りました高階矢富強ジュリアノと申します。4人兄弟の2番目です。ブラジルの南の方に位置している、パラナ州、ロンドリーナ市出身の日系3世です。この町には、約54万人の住民がいます。イギリスに植民地化されたため、ロンドリーナと名付けられたそうです。なぜなら、“ロンドリーナ”の意味は、“ロンドンから来た”という意味です。でも、日本から移住してきた日系人がたくさんいるので、日本植民地化のようです。

大学では、体育学部を卒業してから、身体運動並びにリハビリテーションの専門分野の勉強もしました。全部 UNOPAR 大学で資格をとりました。

僕の祖父母は、福岡県浮羽郡出身で、1925年に姉と両親の4人でブラジルに移住して参りました。船で約1ヶ月以上もかかる長い旅は、今では約30時間で着くので、僕にはその苦労は想像もできません。長い間ブラジルに住んでいても、日本の事や、福岡県の事も、ちゃんと覚えていました。いつも色々な話を聞かせてくれました。そのことが、私が福岡県移住者子弟留学生になりたいと思った最初のきっかけです。他にも色々な理由があります。例えば、日本の優れたリハビリテーションや高齢者の看護技術を学び、日系社会のみならず、一般ブラジル社会にも日本の進んだ技術で貢献したいと思ったからです。

## 生活について

僕は、留学生として一年間福岡に住む事になって、色々な不安を抱えて日本へ旅立ちましたが、福岡市にたどり着いてから、国際交流センターのスタッフが向かいに来て下さり、少し安心しました。その後、一番嬉しかった事は、寮の後藤さんが心温かく「ようこそ、いらっしゃいませ」と、声をかけてくれて、新しい家族のようで、「お帰りなさい」という気持ちが伝わってきました。他の県費留学生ともすぐに仲良くなって、大濠公園で花見も出来ました。でも、皆も大学の方が色々忙しくなり、全員で出掛ける事も少しずつ減りました。皆と出掛ける時は、美味しい物を食べたり、写真を撮って、沢山良い思い出が出来ました。

日本の乗り物は、凄いと思いました。運転手が丁寧に案内してくれる事や、時刻表通りに来ることなど、お客様の安全を第一に考えることを感じました。でも、電車やバスの乗り方に慣れるまで少し困りましたが、今は大丈夫です。大学まで通うのに3時間ぐらいかかり、

色々大変だったけれど、この留学の終わりが近づいてから、大学に通う日も少なくなって様々な事をして日本を知り、また新たな体験もして残りの時間を楽しんでいました。

### 日本の伝統的な文化体験

僕達は、日本で様々な優しい人達とめぐり合い、色々な形で日本を紹介してもらって、もっと日本を好きになりました。久しぶりに竹の子堀りをしたり、温泉の入りを覚えて楽しみました。団体で裸になって入るのは、少し恥ずかしかったですが、温泉から上がったときは、凄く気持ち良かったです。

家族会の方々は、いつも僕達を色々な所に連れて行って、歴史に残っている話を細かく説明してくれました。例えば、九州と本州をつなぐ有名な関門海峡と言うトンネルを渡り、北九州市(福岡県)と下関市(山口県)の県境がトンネルの真ん中にあるのを知ることが出来ました。他にも、日本の歴史上で重要な海峡にも連れて行ってもらいました。そこでは、源氏と平氏の最期の決戦場となった壇の浦、安徳天皇をはじめ多くの平家の公家や武士たちが、この海峡で沈んだそうです。その後、巖流島と言う所に行きました。そこは、剣道者がよく知っている、宮本武蔵と佐々木小次郎が戦った場所です。長年剣道をしている僕は、ここに行くことができ凄く感動しました。

他にも家族会の皆さんのお蔭で日本の最高に素晴らしい花火大会を見に行く事が出来ました。九州で最も美しくて大きな花火大会と聞いていたので、期待して待っていました。想像以上に美しく、僕達留学生は感動し、約2時間ほど花火を見ていました。人も多くて、皆盛り上がり、とても楽しい日でした。

田植えの体験もありました。10月の中旬くらいに、自分達が植えた米の脱穀をする事も出来ました。思っていたより疲れましたが、面白くて凄く勉強になり、お米の大切さが分かりました。あとからその頑張って作った新米を食べるのが楽しみでした。やっぱり最高に美味しかったです。

また、素晴らしい「着物着付け体験」や「茶道体験」に参加し、厳しくて良い先生に指導して頂きました。細かい所まで丁寧に教えて下さいました。家族会の方々から「餅つき体験」にも招待してもらってとても感謝しています。

僕は、本当に運が良いです。3年おきに行われる「慰霊祭」というイベントに参加することも出来ました。色々な国に移住し、亡くなった僕たちの先祖の為に、福岡県の偉い人達が集まり、皆で一緒に先祖の魂を祈る事が出来て嬉しかったです。

### 日本での休暇旅行

富士山に登る事は、子供のころからの夢でした。今年日本でしたいことの一つだったので、6月末ぐらいに皆へ声をかけていました。8月8日の午前11時半ごろに五合目から登り始めて、七合目の山小屋で泊まるための予約を入れていたので、そこで休憩をとる事にしました。登り始めた時は、真っ暗で窮屈だったけれど、日の出を見るためには辛抱が必要でした。大勢の人達も行列して登っていて、皆が頭に付けていた懐中電灯のおかげで、富士山はキラキラ輝いていました。富士山の頂上に辿り着いた時、思わず腕を広げて「やったぞ～」と言う気持ちになりました。日の出はやっぱり想像以上に美しいし、富士山の上から見る景色は

素晴らしくて、上手く言葉では説明が出来ません。日の出を見ている間に疲れが吹っ飛んで、雲の上から見ていた景色は、天国のようで、空中に浮いている感じでした。下山は、一番きつと言われていましたが、僕にとって面白かったです。真っ暗で見えていなかった景色もはっきり見えたし、所々力を入れずに張り切って走って下りて遊んでいました。少し疲れるけど、人生に一度は、体験をするべきだと思います。

## 勉強の事

四月から大川市にある国際医療福祉大学で、理学療法学部の色々な授業や、卒業研究生のゼミにも参加しました。高齢者に対する運動、リハビリテーションに興味をもって留学したので、「老人理学療法学」の教師と高齢者の専門家でもある中原雅美先生が僕の担当の先生になってくれました。森田正治先生も中原先生と共に色々丁寧な教えてくれたり、相談にのってくれました。

はじめは、本当に知らない事ばかりあって凄く不安でした。日本語で体の色々な筋、骨や、筋肉の名前もほとんど知らず、漢字の読み書きもあまり上手に出来ません。まだ漢字の問題で凄く困っていますが、体の色々な部分は、難しいけれど大体なれてきました。先生方からは、優しく教えてもらったり、学生達が、仲間に入れてくれて色々手伝ってくれました。

最初は、森田先生のゼミの学生と一緒に、山王病院で一週間の実習がありました。日本の病院は、どの様に動くか、どう言う機械や技術を使っているか、先生が見せてくれて、学生達と共に行動しました。この交流のお蔭で、先生や学生達も自分の国（ブラジル）では、どの様にしているか少し知る事も出来て、改めて留学の大切さが分かりました。

様々な授業に参加する事も出来ました。例えば前期の岡本先生が教えている「障害者スポーツ」の授業は、楽しくて凄く勉強に成りました。障害者の方がどんな状態や気持ちで色々な競技に出ているか、僕達健常者が少しでも理解出来るように、先生や学生達は一生懸命に考えたり、授業中では片足や、片腕、目をつぶったままで、様々な競技のシュミレーションをして、どの様に指導行えば良いのか実験したりしました。全国障害者スポーツ大会の歴史や、文化にどの様に影響しているかを理解し、指導現場で十分な知識や技術、経験に基づいた指導が出来る人材育成を目的としている授業です。健常者の僕には、考えた事も無かった状況を味わう事が出来、障害者の方が僕達より何倍もの努力が必要か少し分かった気がします。

中原先生は、週に一回僕を隣にある病院に連れて行き、大木町の高齢者とふれ合う機会を与えて下さりました。病院では、「健康予防教室」と言って、通ってくる高齢者達に体操のお手伝いや、データを取る事もしました。高齢者の方々や先生方、スタッフの皆様は、優しくていつも声を掛けてくださり親切に色々教えてくださいました。

## 感謝

僕は、この一年間留学生として福岡に来ることができて最高に嬉しかったです！長い様で短かった日本での生活は、一日一日、精一杯勉強し、大学の事だけで無く、さらに日本文化

を知り、色々な体験をする事が出来ました。それは、ブラジル福岡県人会や、福岡県国際交流センターをはじめ皆さんがこのような素晴らしい機会を与えて下さったお蔭です。

家族会の方々にも、大変お世話になりました。いつでも最高のおもてなしを僕達留学生の為にして下さいました。素晴らしい企画などを立てて下さって、様々な所に連れていってもらい、美味しい物をご馳走になったり、お土産を頂いたり、色々話し合ったり、イベントに招待して下さり、とても優しく自分の本当の家族のようで、別れるのがとても悲しいです。

そして、このように立派な国際医療福祉大学に、留学生として受け入れてもらった事をありがたく思っています。素晴らしい先生方、学生達と色々交流出来て、とても嬉しかったです。

この留学を通して、日本との繋がりを理解し、こんなに大勢の方とめぐり合えたお蔭で、良い思い出を作ることも出来て、楽しい留学生活を送る事が出来ました。母国に帰ってからも、学んだ新たな知識と技術を高め、それを生かす仕事に就いて貢献し、ブラジル県人会の為に活躍して頑張っていきたいと思っています。

この一年間で出会った先生方、友達などの一人一人に感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございます！

また、会える日を楽しみにしています。





## 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部

准教授 中原 雅美

(高階指導教員)

高階強ジュリアノ君は国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻理学療法学分野の研究生として、昨年4月から私の所属する福岡保健医療学部（大川キャンパス）を中心に学業に励まれました。母国ブラジルでは体育学部を卒業後、高齢者への運動指導を仕事としていたことから、本学大学院保健医療学分野理学療法学専攻の講義に加えて、福岡保健医療学部理学療学科の講義も聴講されました。聴講科目は、大学院2科目（①基礎理学療法学講義Ⅰ、②応用理学療法学講義Ⅰ）、学部前期5科目（①障がい者スポーツⅡ、②障がい者スポーツⅢ、③スポーツ理学療法学、④理学療法技術学実習、⑤卒業研究）、学部後期6科目（①小児理学療法学Ⅰ、②人間発達学、③運動生理学実習、④運動学、⑤卒業研究）と多く、講義を受ける態度も非常に真面目で意欲的に取り組まれていました。また、本学関連病院である福岡山王病院や柳川リハビリテーション病院での見学実習、さらに私が協力している福岡県大木町の介護予防事業に参加し、高齢者への運動指導も行いました。日本の病院およびリハビリテーション現場に触れ、日本の医療現場に関する理解が深まったものと考えます。介護予防教室ではパワーリハビリテーション機器等を実際に使用した高齢者への運動指導や母国ブラジルでは経験したことのない転倒予防を目的とした二重課題トレーニングを実際に経験し、その活用方法を学習しました。高階強ジュリアノ君は、明朗闊達な人柄に加えて、日本語でのコミュニケーション能力も高く、大学院生や大学生とも活発に交流をはかっていました。また高齢者への運動指導の際には、笑顔でコミュニケーションを取りながら的確な指導を行い、参加している高齢者の方々から高く評価されていました。日本において学んだこの一年間は、高階強ジュリアノ君の将来にとって意義あるものになったと感じています。帰国後、益々のご活躍を期待しております。





ブラジル福岡県人会  
平田 さゆり カレアンドラ

九州産業大学 経済学部

## 1) 初めに

私の名前は、平田カレアンドラ小百合です。ブラジルのサンパウロ州カンピーナス市から参りました。三人兄弟の末娘で、二十五歳です。日系三世で、祖母は福岡県の太刀洗町で生まれて、ブラジルに移住し育ちました。サンカルロス国立大学で経済を勉強し、2014年に卒業しました。留学生として日本に来る機会を与えてくださったブラジル福岡県人会の皆さんや、福岡県国際交流センターのみなさんに心から感謝しています。この一年間でいろいろな体験や経験をして、勉強だけでなく日本文化も学んで楽しみたいと思いました。

## 2) 日本の生活

日本に来る前に私は不安な気持ちを抱えていました。日本とブラジルの距離は凄く遠いし、言葉も全く違うので困っていました。けれども日本にきてからどこに行っても素晴らしいところばかりで、感動して、また様々な点にも驚きました。例えば、日本は清潔で秩序正しいです。日本の都市交通システムは効率的で、信じられないくらい時間に正確です。日本の安全と美しさに魅了されました。夜中に砂浜に行っても大丈夫なので景色をながめていました。日本に着いてからすぐに他の留学生たちと大濠公園で花見する事も出来たし、たくさん記念写真をとる事も出来てとても面白かったです。桜が満開に咲いていて凄く美しかったです。言葉の違いがあって他の留学生とあまり会話が出来ませんでした。日本語やスペイン語がほとんど出来なくて、英語はできますが会話をした事は少なかったからです。南米ではブラジル以外の国はほとんどスペイン語で、ブラジルはポルトガル語です。ポルトガル語とスペイン語は言葉や単語がよく似ているけれど、全く違う意味の言葉があって、勘違いする事もあります。英語ではあまり会話した事が無く、日本に来てから自分の考えや気持ちを言葉で表す事も出来てだんだん上手に言葉が通じるようになってきました。

### 3) 研究

サンカルロス国立大学で経済を勉強しました。国際競争力、経営システム、経済とテクノロジーの勉強が大好きですから、日本でこの研究分野を勉強し、たくさん学んで、良い経験になりました。日本で勉強したことで、日本の経済機構や社会のしくみ、どのようにして日本は経済大国になったか、どのように日本はテクノロジーの輸出主導型経済になったか、などが分かるようになりました。そして日本とブラジルの両者を対比して、経済分野でのブラジルの問題点や解決方法を研究していました。日本の会社の経営システムを研究してみて、私は日本の仕事のシステムは素晴らしいと思いました。会社の中のシステムがまとまっていて、従業員は会社のために完璧を目指して頑張る人が多いです。ブラジルとは異なる経済構造と日本の良い点を学びました。

私の担当である広瀬先生と、毎週研究室で色々なことを話しています。例えば、お互いの国の文化、見どころ、行動、伝統、革新などをディスカッションして学んでいます。日本の良い点を教えてもらい、私はブラジルの良い点を教えて、お互いが一緒にたくさんのことを学びました。毎週このミーティングは大変面白くて、良い経験になりました。

### 4) 新しい経験

家族会のイベントで日本文化を学ぶための、いろいろなイベントがありました。例えば田植えや稲刈り、タケノコ掘り、お寺、ハイキング、伝統文化などです。着物体験と花火大会が一番気に入りました。一生忘れません。着物の柄がたくさんあって、様々な色と柄から選ぶことはとてもむずかしかったです。着物姿で茶道体験をし、正座はきつかったけれど、細かいところまで先生が教えてくださったおかげで凄く勉強になりました。とても素晴らしかったです。久留米で浴衣を着て、初めて花火大会を見に行きました。筑後川で1万8000発の花火が打ち上げられて、約40万人の人たちが集まり盛り上がりました。様々な色、絵、デザインがあって、最後の花火は本当に大きく美しく夜空に輝いて、とても感激しました。

日本で一年間たくさんの体験をし、初めてのことも多かったです。例えば着物体験、山登り、野球の試合、雪、お寺、動物園のパンダ、イルカに触れたり、温泉やビール工場などに行きました。私は旅行が大好きなので、色々なところを観光しました。日本で十五以上の都市に行くことが出来て、大切な思い出になりました。

さらに、今までは「出来ない」と思っていたことにも成功したので、私は今からでも新たなことにチャレンジ出来るのだと学びました。日本で富士山が一番有名なところなので、富士山に登ることができて、とても嬉しかったです。なかなか難しかったけれど山頂からは、白い雲、青い空、日の出などの眺めが凄くきれいで、一生忘れることはない

思います。一人で旅行することはいろいろな不安を抱えて心配でしたが、やってみて成功したし、とても楽しかったのでまたいつか新たなところに旅に出たいと思います。

私は日本でたくさんの経験をして、嬉しい事ばかりでしたが、自分の家族がブラジルから遊びに来たのは、他と比べる事も出来ないくらい何倍も嬉しかったです。家族にとって、日本旅行は初めてだったので、すべての瞬間はスペシャルでした。母のいい笑顔に新しい経験、場所、食べ物、体験など、お金で買えないものだと思っし、私はとても嬉しかったです。

日本でこのような素晴らしい機会を与えてくださり、ブラジル福岡県人会、福岡県国際交流センター、家族会、大学の先生方、色々な方とめぐり合えたことに感謝しています。これから先、この一年間で学んだ事をもっと高め、ブラジルで貢献しブラジル福岡県人会のためにも活躍して、ネットワークを広げたいと思っています。





九州産業大学 経済学部

准教授 広瀬 恭子

(平田指導教員)

### 平田さんと過ごした1年間

最初に、平田さんに対して尊敬の念をお伝えしたいです。地球の裏側の国で生活すると決めるには大きなエネルギーが必要だったでしょうし、知らない人との共同生活は非常にストレスフルであったと推測されます。平田さんが、知らない国で初めて会う人たちとの共同生活にサバイブしたことに、私は尊敬の念を強く覚えます。

平田さんは、私にとって初めてのアジア以外の国からの留学生でしたので、平田さんを迎えることに不安を感じていました。しかし、平田さんが大人で、かつ、勤勉であったため、先生という存在は必要なかったように思えます。私は、平田さんの最も大きな目標を、日本語の習得とブラジルでは知られない・経験できないことを発見・経験することとし、経済の研究を第2の目標と考えました（経済の研究は資料さえ手に入ればどこでもできるからです）。しかし、私の指導は必要なく、さらに、平田さんが私の先生となる 때가時々ありました。平田さんは、日常生活では周囲をよく観察し、さらに、日本の様々なところに出かけていきました。日本とブラジルの文化や生活の様々な違いや、お出かけでの感想や思い出を教えてくれましたが、それらは私にとって非常に面白いお話でした。課題であった日本語での日記には、問題点はあまり見られませんでした。むしろ、日記から彼女の様々な体験や奮闘を知ることができ、日記を読むことが私の密かな楽しみとなりました。研究報告で日本とブラジルの経済に関する代表的な指標が平田さんから報告されたとき、私が知らなかった事実が確認でき、非常に面白い報告となりました。また、平田さんにはポルトガル語のレクチャーを何回かお願いしましたが、難しかったです。

ポルトガル語の学習を挫折してしまったのが私の一番の反省点です。ブラジルに行くまでには、平田さんのレクチャーを思い出しながら勉強します。

平田さんのおかげで、楽しく有意義な時間を過ごせました。平田さんが福岡に来て、私と時間を過ごしてくれたことに対し、感謝の気持ちでいっぱいです。平田さんが日本で経験した苦楽が、平田さんの将来を明るくしてくれることを期待しています。



パラグアイ福岡県人会  
北川 瞳

国際医療福祉大学 福岡保健医療学部

## はじめに

私はパラグアイ国イタプア県出身の日系3世です。2013年に理学療法学科を卒業し、発達障害児に対する刺激療法の専門分野を学び、小児リハビリテーションセンターや病院に勤めていました。その後、ルーツである福岡県のことを知りたいという気持ちと、大学在学中に一ヶ月間に渡る日本での研修を経験したことが、卒業後再び日本への留学を決意するきっかけとなりました。

## 福岡での生活

日本での生活がスタートし、福岡県国際交流センター、福岡県海外移住家族会、大学の指導員、学生の皆様に温かく歓迎して頂いたお蔭で、新しい環境にも早く慣れました。とても豊かな場所で、親切な人が多いことから、とても住みやすい環境だと感じました。

一年間滞在したことで、四季の移り変わりを楽しむことが出来ました。来日した春には、満開の美しい桜が私を歓迎してくれました。梅の花、チューリップや藤もとても素敵です。夏には、海、お祭り、花火大会など賑やかなイベントに参加しました。日本の花火の大きさや迫力は、心に響くほどの音なので、驚きました。夏と言えば蝉しぐれを思い出します。秋には、赤いもみじや黄色いイチョウが広がる鮮やかな景色が多く、夜にはライトアップされ、朝から夜まで様々な楽しみ方があり、素晴らしかったです。冬には、クリスマスが近づくと、イルミネーションがあり街がキラキラしています。雪が舞い白く染まる風景もみる事ができました。初めて雪を見る事が出来、今までに経験したことがない強烈な寒さでした。

日本での生活を通して、感心したことは、日本人の独特のおもてなしの心です。丁寧さ、礼儀正しさや心遣いなどです。特にそのことを最も感じたのは、お正月に皆さんから沢山の年賀状を頂いたときです。日本の伝統である、お世話になった人の事を忘れず、感謝を伝えることの素晴らしさから、日本人のおもてなしの心を強く感じさせられました。

## イベント

県人会担い手育成招へい事業に参加し、多数の国からの子弟、引率者と留学生と一緒に、様々な観光や体験を通して日本と福岡の文化や歴史を学びました。初めは、子供達には恥ずかしさと緊張が見られ、会話をすることもあまりできませんでした。ゲームなどを通してチームを組み、お互い助け合ったりしていくうち仲良くなり、明るく元気いっぱい賑やかで楽しい毎日でした。言語や文化が違っても、同じ福岡県にルーツを持つ人達と絆を深める貴重な体験となりました。何より、この出会いを大切にしていきたいと思えます。

一番思い出に残っていることは、着物着付と茶道体験をさせて頂いたことです。日本の伝統衣装である素敵な着物を着せて頂き、日本庭園で写真を撮ったりしました。そして茶道の作法の説明からは、何事にも感謝や相手を思いやる心の大切さを学びました。茶道には、沢山の意味があることを、初めて知りました。日本文化への理解を深める、素晴らしい体験でした。

又、福岡県海外移住家族会の方々は、様々な企画を立ててくださり、季節ごとに違った楽しみ方がありました。タケノコ掘り、蛍見学、田植え、花火大会、ブドウ狩り、餅つき、温泉などの体験をさせて頂きました。

## 大学

国際医療福祉大学へ通いました。医療福祉を専門とする総合大学で、日本国内に多数のキャンパスがあり、国外で活躍できる医療福祉専門職の育成もめざし、海外研修にも取り組んでいる大学です。私は、この理学療法学科で勉強させて頂きました。

前期は、運動学に関する科目の授業を受けました。講義の内容はわかりやすく、実践もあり、とても勉強になりました。中でも一番良かったのは、導入している大学は数少ないと言われている、障害者スポーツに関する授業を受けられたことです。障害者スポーツの競技特性やルールを理解し、障害を持つ方々のスポーツの楽しみをサポート出来るように、様々な障害に応じた指導の工夫や、新しいスポーツを開発したりします。

後期は、この留学で希望していた発達障害と小児理学療法の授業を受け、小児疾患に対する評価や治療法を通して、専門知識と技術を学びました。卒業研究発表作成にも仲間に入れてもらい、発表会にも参加させて頂きました。様々な分野の新たな技術を知ることが出来、どれも興味深いものばかりでした。

様々な見学にも参加させて頂きました。病院見学では、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士達が共同で作業を行っている現場を知ることが出来ました。お互い協議をし、一人ひとりに対し適切な治療法や結果を見学することで、学際的なチーム治療の重要性の理解を深める良い機会になりました。

障害児が通う幼稚園では、理学療法士と幼児の関係や対応だけではなく、御家族の方とお話が出来、実際の感情や希望を聞く事ができたのは、私にとって大きな刺激となり、留学期間のモチベーションも高まりました。

このような見学を通して、一つひとつ丁寧なご指導のもと様々な経験をさせて頂いたことで、日本の病院や施設の仕組み、保険制度の仕組みや理学療法士がどのように対応や応用されているのかを知ることが出来ました。実際に街にでて見学することは、様々な方とのふれあいから幅広い経験をすることが出来ました。

## 最後に

この一年は、日本でしか味わえない大切な思い出がぎっしり詰まった一年でした。この様に素晴らしい機会を与えてくれた、福岡県庁、福岡県国際交流センター、福岡県海外移住家族会、パラグアイ福岡県人会、そして保証人を引き受けて下さった皆様、大変お世話になりました。心から御礼申し上げます。



国際医療福祉大学では、本当に良い先生方と出会うことができ、貴重な経験が出来ました。素晴らしい結果に導いて頂いたことに感謝しています。丁寧にご指導していただいた日本の高度な知識や技術を、自国の健康学科の発達に役立て、それを発展していけるよう、頑張りたいです。

そして、日本で友達になってくれた皆様とは、とても楽しい時間を過ごせたことに感謝しています。

この一年間を通して、様々な人に出会い、様々な事を体験し、様々な事に挑戦し、様々な世界と触れ合うことで、自分の世界が広がり、次のステップに繋がる重要な一步となりました。今後も多くの事にチャレンジをし、希望を持ち、この貴重な経験を活かしたいです。この出会いを大切に、今後また皆様に会える事を楽しみにしています。

皆様！本当にありがとうございました。



## 国際医療福祉大学 福岡保健医療学部

教授・学科長 森田正治

(北川指導教員)

北川瞳さんは、平成 27 年 4 月から国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻理学療法学分野に所属し、大学院のサテライト授業（基礎理学療法学講義、応用理学療法学講義）に加え、学部で開講されている障害者スポーツⅡ（応用）、障害者スポーツⅢ（実習）、スポーツ理学療法学、運動生理学実習などの演習及び実習科目を多数聴講しました。母国パラグアイのカトリック大学イタプアキャンパスで理学療法士の資格を取得後でありましたが、これまでに学んだことの良い復習の機会となったようです。また、北川さん自身が障害を持つ子供たちの理学療法に興味を持っていたことでもあります。パラグアイでは小児分野の理学療法のニーズは高いものの従事するスタッフや環境が整っていないため、私が担当している人間発達学や小児理学療法学Ⅰの授業への関心が非常に高く、自らテキストを購入し、内容をより深く理解することに努めていました。さらに、日本語が堪能であるため、大学近隣の大木町における介護予防事業にも参加し、学部生や大学院生と交流を深めながら高齢者の支援にかかわり、卒業研究や大学院生の研究の一端を担って頂きました。参加されていた高齢者の方々とのかかわり方も良好であり、スタッフからも好感を持たれていたようです。一方で、当大学の関連病院（高木病院、柳川リハビリテーション病院）のリハビリテーションの現場見学に加え、福岡山王病院では多職種が連携しながら臨床実践する『関連職種連携実習』にも参加し、医療に必要な多職種とのチームワークを学ぶ良い機会になったようです。1年間という留学期間が北川さんにとって有益なものであったことを期待しつつ、パラグアイに帰国後は、日本で学んだ知識や経験を臨床の現場で生かして頂ければ幸いです。本当に1年間ご苦労様でした。



ペルー福岡県人会  
グティエレス タナベ アレックス

九州造形短期大学 写真専攻

## はじめに

子供の頃から日本に憧れていました。私の祖母は日本人なので、幼い頃から日本文化に影響され、日本料理を食べたり、NHKの日本の番組を見たり、アニメを好きになったり、日本のマナーを学んだりしました。2011年に兄が福岡に県費留学生として勉強に行きました。一年後、兄がペルーに帰ってきた時に、彼から色々な話を聞き、日本がそんなに素晴らしい国なのかと思い、私もいつかその文化を自分自身で体験するのが自分の夢になりました。そして、今年その夢が叶いました。

## 日本の生活

福岡空港に着いた時に、すごくワクワクしていましたが、何をすればいいか全く分かりませんでした。寮の一人暮らしの生活に慣れたり、他の県費留学生のこと知ったりするその全てが私にとって面白い経験になりました。また、みんなが私と同じ県費留学生なのに、言語はバラバラで、話す時も英語とポルトガル語とスペイン語と日本語のミックスで、とても楽しかったです。確かに、文化の違いがたくさんありましたが、同じところもありました。例えば、みんな時間を守る習慣がそんなになくて、お肉を食べるのが大変好きで、そして、もちろん、みんな日本の文化も好きでした。

家族会や福岡県国際交流センターの方々のおかげで、この一年間様々な体験をすることができ、良い思い出になりました。最初は県費留学生のみんなと大濠公園にお花見に行きました。初めて桜を見て、とても美しくて日本の春の魅力を知ることができました。久留米で家族会の方の家に泊まり、久留米の周りも散歩しました。夏になり、「県人会担い手育成招へい（子弟招へい）」プログラムに参加し、グローバルアリーナに私たちと同じ各々の国から来た県人会の子供たちと泊まり、面倒を見ながら一緒に福岡県内を周りました。家族会の方々のおかげで、お祭りに行き、花火大会にも行くことができました。また、冬には餅つき体験に参加したり、着物体験をしたりしました。そして、毎回とても美味しい料理をご馳走していただき、これは本当に幸運としか思えませんでした。

## 学校の生活

福岡でいっぱい遊びもしましたが、学校も頑張らないといけませんでした。私はペルーでソフトウェアエンジニアとして働いてきましたが、今年九州造形短期大学で写真の勉強をさせていただきました。なぜ写真を専攻したかと言うと、写真は元々私の趣味で、芸術やクリエイティブな技術のことをもっと学びたいと思ったからです。また、ペルーで働いていた際の事業もウェブ・デザインに関係がある仕事が多かったので、このクリエイティブなスキルを活かせるのではないかと思いました。

初めての授業は大変緊張しました。クラスメートと話すのがちょっと怖くて、自分の日本語に自信がなくなりました。「言葉は通じるのかな？他の人としゃべれなかったらどうするの？」とよく悩んでいました。しかし、逆に「アレックスの日本語うまいな！まるで日本人みたい！」とよく言われました。みんなが優しいのでそう言ってくれていただけかもしれませんが、ある時「外国人だが、どうしてアレックスが普通の日本人の大人より若者言葉を使えるの？そして、どうしてサブカルチャーのことも詳しいの？珍しい！」と友達に聞かれました。その時私は気づきました。「年上の人と話すには、自分の日本語はまだ足りないが、友達と話すときには、子供の頃から見た日本の番組やアニメのおかげでいろいろな言葉を学んだからかも！」と。もちろん、私はみんなより4歳年上なので、最初は話すときには先輩扱いされ、ちょっと硬く感じましたが、どんどんその先輩・後輩の関係がなくなって、本物の友達になれました。そして、気づいたときには、先生やみんなと仲良くなっていました。毎日学校では、同じ写真専攻の人と一緒にご飯を食べたり、作業をしたり、天神や博多に遊びに行ったり、バンドを組み、軽音部に参加したりしました。まるで家族のような存在になりました。

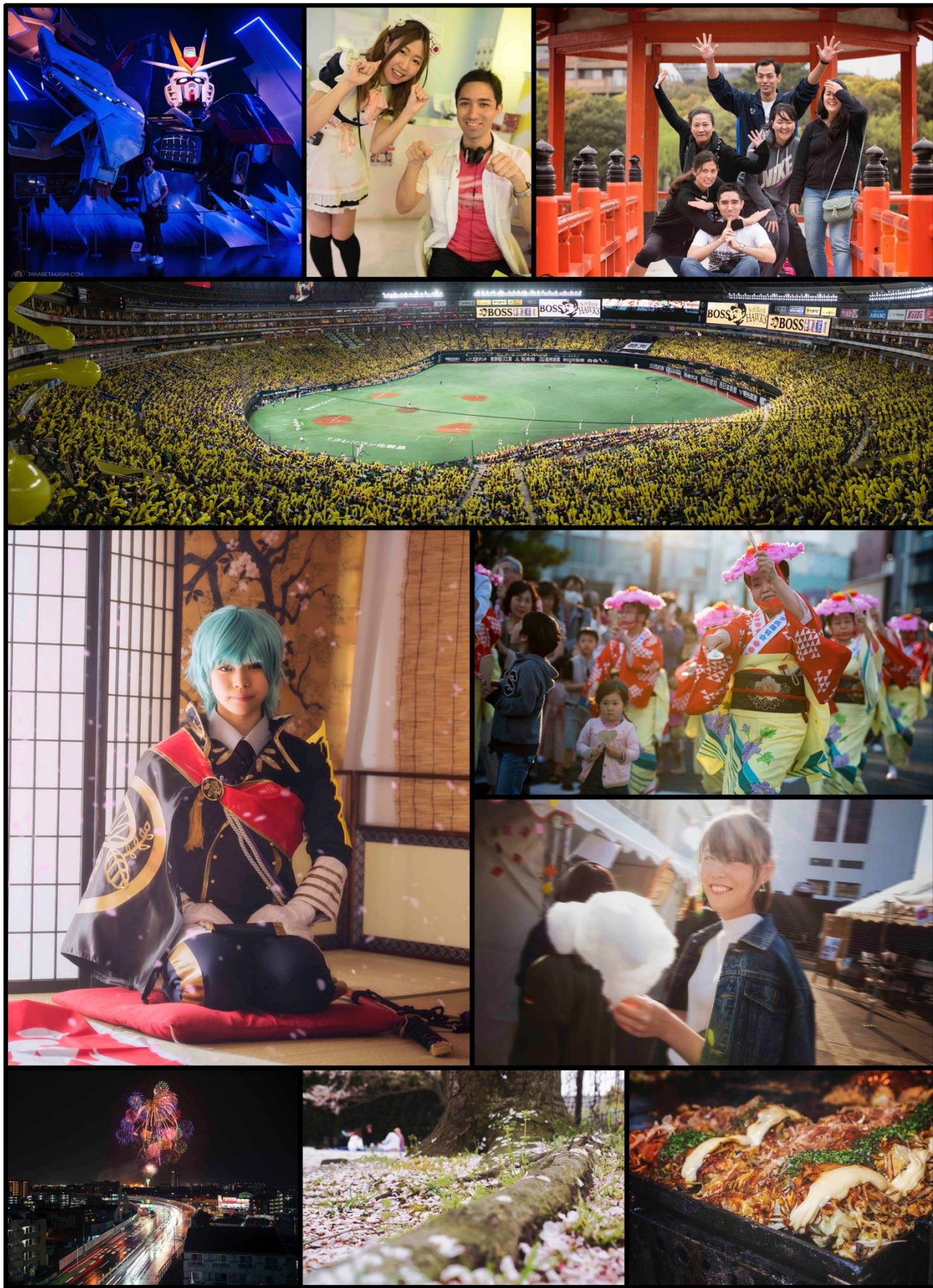
## 勉強のこと

また、写真の勉強について、この一年間に様々なことを学びました。来日する前に写真の基礎を勉強してきましたが、芸術の勉強はしたことがありませんでした。なので、この一年間その勉強に集中しました。そこで、ただ綺麗な写真を撮るだけではなくて、意味がある写真を撮れるようになるために頑張ってきました。その結果、九州産業大学の「上野彦馬賞」フォトコンテストに入選したり、自分のポートフォリオの製本を完成したり、アジア美術館に友達の作品とともに、私の写真も展示されたりしました。けれど、写真家として私はまだまだ素人だとよく分かっているので、これからもっと頑張りたいと思います。

## 最後に

この一年間本当に勉強になりました。写真の勉強だけではなく、日本文化も身についたと思います。私にとって一番嬉しかったのが、外国人としてではなく、日本人として日本文化を体験できたことです。みんなとカラオケに行ったり、一緒に友達の家で鍋パーティーをしたり、野球観戦したり、ゲームセンターに行ったり、日本のアーティストのライブを見に行ったり、イベントにアニメのグッズを買いに行ったりしました。しかし、日本の楽しみ方より、一番身についたものは、日本人のマナーです。時間を守り、自分のゴミでなくても拾って街をきれいにし、先輩を敬い、悩みがある後輩達を助ける。これからは、日本人から教えられたマナーを活かし、立派な大人になるために頑張っていきます。この一年間で作った思い出は一生忘れません。心からありがとう。







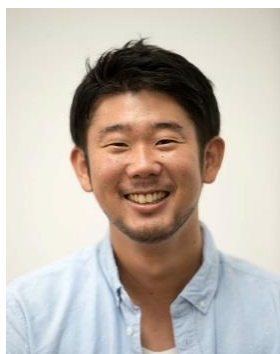
田辺アレックス君は、2015年4月から九州造形短期大学写真専攻で1年間研究生として私の研究室に在籍しました。初めて会った時の印象を言えば、最近になって、写真に興味を持ちはじめたばかりの留学生というイメージでした。写真専攻の設備などを説明し、学校の施設を見学させました。見学しながらアレックス君から、「私は研究生なのに、こんな多くの施設や設備を使用してもいいのですか？在學生でもないのに」と言われましたが、僕は「学生と同じようにすべてを使って良いよ！」と言ったらアレックス君は興奮しながら大声で「ありがとうございます。頑張ります。」と言ったことを覚えています。

学期が始まって、アレックス君は一般学生とは違い、研究生としての最低限の科目を履修すれば良いのに、在學生と同じ量の科目数を登録して誠実に授業を履修しました。写真を2年目勉強している在學生とは違い写真をすぐに始めた彼でしたが、他の学生とは全く差がありませんでした。授業を理解する能力と日本語を急速に習得していきました。

入学当時、日本文化の代表的であるアニメーションや写真をより深く勉強し、コスプレ写真を独自に制作したり、写真の伝統的価値である社会的視点からヤングジェネレーションを表現しました。そして秋になり、就職活動を通じてインターネットプログラミング会社に積極的に取組み内定をもらいました。短い時間での勉強と就職活動は大変だったと思いますが、彼は誰より努力し就職が出来ました。

4月から東京で、会社人として生活をするようになりますが、彼は状況把握が早く効率的に対処することが出来るので、任された任務を忠実にやる事ができるので、会社でなくてはならない存在として活動すると信じています。

日系人としての誇りをもって、社会に即応すると思います。彼の未来の活躍にご健勝を深く祈ります。



在ボリビア福岡県人会  
緒方 翔 マルセロ

国立研究開発法人  
農業・食品産業技術総合研究機構  
九州沖縄農業研究センター

## はじめに

私は、緒方翔と申します。23歳です。ボリビアのサンタクルス県サンフアン市日本人移住地から県費留学生として福岡に来ました。ボリビアでは、大学の農学部を卒業して、父と一緒に農業と畜産を営んでいます。この留学を通して、ボリビアに住んでいる日系人と日本の方たちの関係を深めたいと思い、日本に来ました。あとは日本でもっと稲作の事を学びたいと思いました。稲作の勉強をするために、今年一年九州沖縄農業研究センターの栽培グループでお世話になりました。

## 日本での生活

私にとって日本での生活は、良い人生勉強になりました。日本で最初に苦労した事は、電車での通学でした。私が住んでいる寮から研究所まで約2時間だったので、毎日朝が早く本当にきつかったのですが、私にとってとてもいい経験になりました。福岡では、自協学舎という寮に住みました。香椎駅から歩いて5分ぐらいでした。コンビニ、スーパーやスポーツクラブ、なんでも近くにあったので、すごく快適でした。

日本に来る前に父から、日本の夏は暑いよ!!と言われました。私は、ボリビアの夏よりは大丈夫だと思っていました。実際日本の夏を体験した時は、ちょうど私が通っている研究所では、田植えの時期で、ほとんどの作業が外だったので、蒸し暑くて正直もう死ぬかと思いました。しかし今思えば本当に良い体験でした。

日本に着いて感動した事は、食べ物が本当に美味しく世界一だと思ったことです。日本では色々な所に観光で行きましたが、食べ物には困りませんでした。食べるのが大好きなので週に3回は、外食していました。ちなみに大好物は焼き鳥で、居酒屋で食べる事が一番の楽しみでした。ボリビアでは、居酒屋がないので帰国したら、恋しくなると思います。

## 勉強の事

私は、稲の栽培方法を学ため、福岡県筑後市にある九州沖縄農業研究センターの栽培グループで研修をさせていただきました。栽培グループでは、主に稲と麦の研究をしたので、私

にとって日本の稲作を修得するには、最高の環境でした。研究所で勉強した事は、稲の苗作りから始まり、田んぼの準備、施肥設計や病害対策を学びました。

- 苗作り

ボリビアでは、稲を植える時に移植をせずに、直播（種から植える事）をします。私がこの過程からわかったことは、稲作では、苗作りが一番大切だということです。とくに重要なことは、少しの播種量の差が 苗の生育に影響することです。種の量が多い（230g から200g）場合は、稲の茎と葉が伸び過ぎて光の通過が悪くなるので生育には悪い影響がでました。

- 田んぼの準備

私が見た感じでは、日本の田植えは、すごく田んぼの準備にこだわっています。最初に行われるのは、耕起（土を掘り返したり反転させたりして耕すこと）、しろかき（田に水を入れて土を砕いてかきならす作業）です。ボリビアの稲作では、耕起は行いますが、しろかきはしません。

- 施肥設計

日本では施肥の設計は、ボリビアのものとは少し違います。日本では、施肥（チッソ・N2）を二回かけます。一回目は、田んぼの耕起する前につけ、二回目は穂が出る17日前です。ボリビアでは、三回まで施肥をかけます。一回目は耕起の後、二回目は稲が分けつ期に入る前、最後の三回目は穂が出る15日前です。

その他に私は、研究者の研究を手伝っています。生育調査やサンプルの切り取りや色々な作業に参加して、そのおかげで稲の研究方法を教えてもらいました。あとは私がお世話になっている森田先生に、日本の農家さんを紹介してもらいました。農家さんたちは、すごく親切で色々なことを教えてくれました。例えばどうやったら栽培のコストを下げられるかや、どうやったら美味しいお米がつかれるか、その他に貴重な情報をいただきました。

今回の研修は、私にとって 大切な体験になりました。日本で勉強した事をボリビアで農業をしている人たちにも教えていきたいと思います。

## 夏休み

8月には、グローバルステージに参加する青年達に、ボリビアの日本人移住地の事を説明しました。5人の青年は、すごく明るい人達で、説明の時には、色々な質問をされましたが、私は注意点だけを説明して他の質問には、行ってからのサプライズと答えました。

8月5日は、久留米の家族会の皆さんに久留米花火大会に連れて行ってもらいました。日本の花火に言葉も出ませんでした。生まれて初めてあんなに迫力のある花火を見ました。それと家族会の皆さんは、私たちのために特等席を用意して下さいました。本当に感謝しています。

県人会担い手育成招へいプログラムにも参加させていただきました。世界の福岡県人会の子供たちと交流できて、いい思い出になりました。毎日がにぎやかでとても楽しかったです。皆は、お互い言葉が通じなくても、すぐに仲良くなり、他の国の子供たちと仲良くなり、交流していく様子をはっきりと見えました。プログラムの間は、忙しく疲れましたが、子供たちの笑顔からパワーを貰って、この12日間はあるという間にすぎ、子供たちの帰りが悲しくなりました。このプログラムに参加し、交流の大切さが理解出来ました。

## 最後に

このような機会を与えて下さった福岡県人会の皆様、私たち県費留学生の面倒を見てくださった国際交流センターの皆様、家族会の皆様、最後にこの一年間稲作の事を教えて下さった九州沖縄農業研修センターの皆様、この一年間本当にありがとうございました。心から感謝しています。この研修では、人と人の交流がどれほど大切か感じました。帰国した後も私はボリビア福岡県人会と世界の福岡県人会との関係を深めたいので、今後も頑張っていきたいです。





緒方翔マルセロ君研修報告

緒方翔マルセロ君は、農研機構九州沖縄農業研究センター水田作研究領域の技術講習生として、平成 27 年 4 月から水田作栽培研究グループで主に稲と大麦の栽培に関する研修を受けました。研究機関ですので、大学と異なって授業はなく、専らオンザジョブトレーニング形式で、我々の研究活動に参加してもらいながら、水稻の栽培管理や調査方法を学んでもらいました。具体的には、種まき、苗作りから始まって圃場準備、田植え、水管理、施肥、葉色や茎数、草丈などの生育調査、農薬散布、防鳥網の被覆、収穫物の調査・分析と、水稻の 1 年を通じた栽培に沿って多くのことを経験してもらいました。また、研究グループの課題にあるオオムギの研究調査にも参加してもらいました。このほか、大規模農業生産法人と実施している共同研究の現地調査にも同行してもらいました。日本とボリビアでは農業を取り巻く状況は大きく異なると思いますが、日本の優秀な農業生産法人の経営者マインドに触れたことは大きな刺激になったものと想像します。また、熊本県合志市にある九州沖縄農業研究センターの畜産分野の研究グループを訪問して、家畜の繁殖、育成、飼料用稲生産について研究成果のレクチャーを受けて情報交換をしました。

一緒に作業をしていて驚いたのは、マルセロ君の農作業や作物調査の飲み込みの早さでした。ボリビアの農家の跡取りとして子供の頃から農業を手伝っていたことがよくわかりました。農作業は何人かで組作業をすることが多いのですが、マルセロ君が周囲の動きを見ながら呼吸を合わせて、効率的に作業できるよう工夫する姿に感銘を受けました。

研究以外の活動では、研究領域長の計らいで、6 月に九重山へ登ってミヤマキリシマを見に行ったり、12 月には日本の伝統芸能である安来節（どじょうすくい）の練習をして、研究領域の忘年会でグループのメンバーとともに披露しました。

1 年は長いようであつという間でしたが、マルセロ君にとっての研修生活が新鮮で有意義な 1 年であったとすれば、我々にとっても大きな喜びです。最後に、マルセロ君がボリビアで農業をさらに発展させて、いつかまた日本に来て我々に元気な姿を見せてくれることを祈念しています。





メキシコ福岡県人会  
エルナンデス 吉開 順一

九州造形短期大学造形芸術学科

## はじめに

はじめまして。私はメキシコのメキシコシティから参りましたエルナンデス吉開順一と申します。私は日系三世です。1988年7月17日にメキシコシティでうまれました。今は27歳です。

僕の家族は4人です。父の名前はエルナンデス・オルテ・ガラウルです。彼はメキシコ人です。母の名前は吉開アマドル春子です。彼女は日系二世です。あと兄の名前はエルナンデス吉開義道です。僕の祖父は福岡の久留米に生まれ、20歳の時にメキシコにいきました。メキシコでキャンデーファブリックというお菓子の会社を作りました。今は、メキシコで自分の会社を2つ経営しています。「Yoshikai Management S.A. de C.V.」（吉開管理）という会社の経営コンサルタントの会社と、「Over All」（オヴェルオール）というデザイン会社です。

メキシコについてお話しします。メキシコの国旗は緑、白、赤の三色旗です。緑は「独立」、白は「カトリック」、赤は「メキシコ人とスペイン人の統一」を表しています。人口は1億2230万人。私の国の面白いところは、マヤやアステカなどの大遺跡をはじめ、瀟洒なコロニアル都市など歴史的な見どころがいっぱいな点です。土着の先住民文化とスペイン文化が複雑にからみあっているので、各地のお祭りや市場では独自の民族色が楽しめます。また、近年日本人旅行者に注目されているのが、カンクンやロスカボスなどのビーチリゾートです。純白のビーチと青い海が広がるエリアに高級ホテルが立ち並び、アクティビティやグルメも思う存分に満喫できます。

## 福岡での生活

今回私が福岡に住むのは3回目になります。「自協学舎」という寮に住んでいます。この寮は福岡の東側にあります。福岡県にきて、こまったことは気候だけです。私は湿気があり、暑い気候に慣れていません。福岡に戻っている私の旧友に会うことができたのは嬉しかったです。福岡の人は、相手がどこから来たかは重要視せず、温かく歓迎してくれ、とても友好的な人々が多いと思います。都市は安全で、イベントが数多く催されています。日本人の友達を作ることは日本語を学び続け、日本についてさらに知ることができる絶好の機会でした。

## 勉強

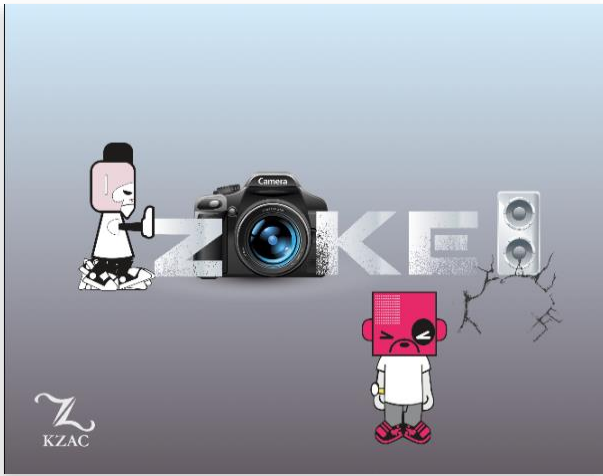
九州造形短期大学で写真、映像、アニメを勉強しました。絵を描くことやモノを作ることが好きだったので、好きなことに一生懸命に取り組める環境が整っている造短への入学を決意しました。日本人の友だちもでき、交流の場が広がり、自分自身、とても社交的になったと感じます。日本での研究は、メキシコとは学校のシステムや言語も違うので、大変でした。いつも集中力が必要でした。メキシコではまだアニメの分野は日本ほど進んでいませんが、グラフィックデザイナーの多くは、アニメを作りたいと思っています。この機会に僕も日本のアニメテクニックを勉強したいと思いました。このテクニックを身につけることができたならメキシコに帰る時に私はよりよい仕事を見つけることができると思います。あと、映像の事も興味があったので、それも勉強しています。ビデオ(ストップモーション)を作成するのはとても大変な能力が必要で、たくさん時間もかかります。一秒の映像を作成するには1時間ぐらいかかります。だからこの技術を持っていると、とても高い給料が支払われます。メキシコで自分の会社の中に、このサービスを取り入れたいと思います。

今年の経験は非常に有意義でした。私は帰る前にできることを全て学びたいと思っています。日本はたくさん学ぶことができます。

## 感謝

日本のデザインや芸術、日本文化や日本語を多く学ぶことができ、とてもよい経験になりました。

皆さん、福岡県国際交流センター、メキシコ福岡県人会、家族会の方々、大学の国際センターの方々、大学の先生、本当にどうもありがとうございました！



## 吉開順一君の活動報告

吉開順一君は、2015年4月から九州造形短期大学 造形芸術学科の研究生として研究活動を行った。当初の研究のテーマは「日本の写真文化」についてだったが、本学の様々な専攻の中から、アニメーション・映像に興味を示し、その授業を中心に受講し作品制作を行い学んでいる。

### ・課題01「九州造形短期大学のID映像制作」

テレビ番組のオープニングや様々なプロモーション映像の冒頭に使用されるIDを15秒の作品として制作。オリジナルキャラクターと音楽を制作し、専用ソフトで編集作業をしている。自宅で録音し、オリジナルの音楽をレコーディングするなど、作品はオリジナリティのある作品に仕上がっている。制作した作品は、他の学生で発表し、反応の大きい作品でもあった。

### ・課題02「ストップモーションアニメーション」

映像の基本でもあるストップモーションアニメーションの原理を学び、グループで作品制作を行った。ハリウッドでも使用されているアプリケーション(DragonFrame)を使用し、一コマ15フレームの映像を制作。グループ制作のため、他の学生とのコミュニケーションをスムーズに行うには日本語というハンディキャップもあったが、なんとか作品を仕上げる事が出来た。

上記のように、一年間で映像を中心に作品制作を行いながら、多くの刺激を受け人間的にも大きく成長できたと確信している。

ストップモーションアニメーション 授業課題 2016 年 3 月 9 日

グループによる作品制作

使用ソフト：Adobe After Effects、DragonFrame、その他

制作日時：2016 年 1 月

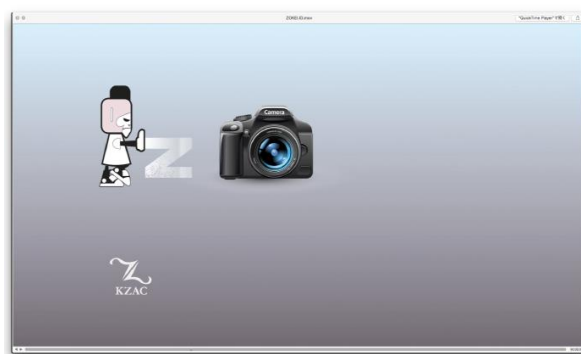
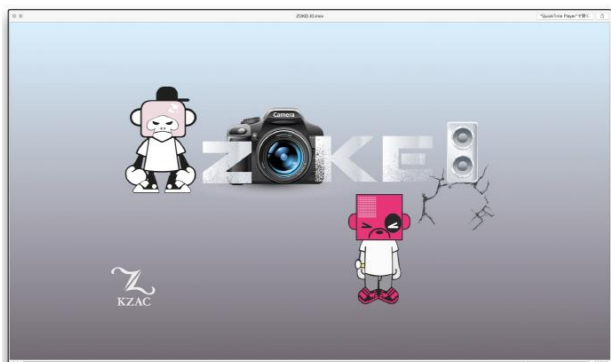


アニメ・映像・メディアデザイン研究 授業課題 2016 年 3 月 9 日

AfterEffects によるステーション ID の制作

使用ソフト：Adobe After Effects、Illustrator、その他

制作日時：2015 年 7 月





メキシコ福岡県人会  
寺本 英樹

福岡大学 商学部

## はじめに

僕はメキシコで生まれた日系三世です。母方は福岡出身です。祖父は久留米の五郎丸と言う小さな町で生まれて、二十歳でメキシコに移住しました。祖父はいつも福岡に誇りを持っていました。メキシコ福岡県人会の創設者でした。今メキシコ福岡県人会の人数はだいたい100人です。一年の間に色々なイベントをやっています。新年会や子供の会や青年会やクリスマスパーティもやっています。そして去年初めて日本語のクラスもできました。日本語を学びたい人に教えています。

僕は、2014年に大学のマーケティング学部を卒業しました。小さい時からメキシコで日系人協会などのイベントに参加しています。将来の夢は、メキシコと日本の架け橋になることです。

## 日本の生活

日本についての時は色々と驚いたことがありました。この一年間、初めて1人で過ごしました。今まで問題があったら父や母に手伝ってもらっていましたが、今年は自分でやらなといけませんでした。本当に自分一人でやらなければならないことをたくさん覚えめました。始めは日本で過ごすのは、あまり簡単ではありませんでした。毎回迷子になってびっくりしましたが、少しずつ福岡市の中を自由に動くことができるようになりました。私たちは東区に住んでいました。いつも寮の中で色々なことをやっていました。遊んだり、映画を見たり、一緒に食事をしたり、夜遅くまで話をしていました。本当に賑やかでした。今年の県費留学生10名（ブラジル、ペルー、パラグアイ、ボリビア、アメリカ、アルゼンチンとメキシコ）みんなでたくさんの素晴らしい思い出を作ることができ、感謝しています。

私は今回日本に来るのは3回目でした。いつも短い期間でした。今回日本中の色々な素晴らしい場所を見ることができました、九州の別府、北九州、唐津、本州の広島、大阪、京都、和歌山、東京にも行くことができました。でもやっぱり福岡は全国で一番優しい人が多く、住みやすい町で、もちろん一番美味しい食べ物が多いと思います。



## 家族会について

日本に来る前は、こんなに素晴らしい集まりがあったとは知りませんでした。ミーティングで説明してもらった日にはあまり分からなかったけれど、家族会の初めての集まりに行ってみて分かりました。家族会みなさんに、感謝を込めて心からありがとうと言いたいです。家族会のおかげで花火大会、ぶどう狩り、着物体験などを経験できました。この一年間お世話になりました。

## 夏休みのこと

去年の7月に大きなイベントがありました。2015年県人会担い手育成招へい事業です。このイベントは福岡県が毎年がんばって、海外から子供たち20人と引率者10人を福岡に招へいします。本当に素晴らしいプログラムだと思っています。このプログラムにメキシコ福岡県人会から今の倍の人が参加すれば、もっと福岡と県会にたくさん興味を持ってくれる人が増えると思います。プログラムの長さは12日間で、子供達にとって人生で忘れられない良い思い出になったと思っています。毎日朝から晩まで遊んだり、食堂で一緒にごはんを食べたり、福岡の色々な場所を見たり、ホームステイで日本人の家族と3日間過ごしたり、日本のおもちゃやゲームをして遊んだことは絶対に忘れられない思い出です。引率者については、福岡に来るいいチャンスだったと思います。そして母国の県人会に戻って、県人会活動に力をいければ県会の絆は強くなると思います。そしてこの子供たちは将来留学生としてもう一回福岡に戻ってくるだろうと思います。

## 勉強について

私はメキシコでマーケティングの勉強をしました。日本に来る前に自分の会社を開きました。その会社は雑誌社です。2005年ぐらいからたくさん日本の自動車会社がメキシコに工場を作りました。NISSAN、TOYOTA、MAZDA、HONDAがアメリカや南米で車を製造しています。そのおかげで日本から多くの社員が派遣されてメキシコに住んでいます。今ごろ色々な新しいビジネスが展開されていると思います。私が開いた会社は、日本人のための雑誌です。メキシコの観光、食べ物、文化、アドバイスなど色々と便利なことを日本人に教えるための雑誌です。

大学での勉強については、福岡大学の太幸先生にお世話になりました。日本の経済そしてマーケティングについて研究しています。日本はほかの国と比べると発展している国です。日本人は小さい時から素晴らしい教育があり、一度始めたことは最後までやり遂げます。それはマーケティングをするうえで、すごく有利です。なぜかと言うと日本のシステ

ムを細かく数えることができるからです。それが出来たら色々なデータがとれるし、何を、何処で、いつ、どういうふうにお客さんが買い物をするか知ることができます。

## 最後に

この一年間すごくいい経験になりました。福岡県国際交流センターをはじめ皆さんに心からありがとうと言いたいです。県費留学生として受け入れて頂きありがとうございました。国に戻ってメキシコ福岡県人会の活動に力を入れて、福岡県との交流がこれからも続くようにがんばります。



福岡大学 商学部

准教授 太宰 潮

(寺本指導教員)

寺本英樹さんは、イベント開催について学びたいという意志を持って、本学商学部を志望して頂いた。何より、ご本人が既に現地で働く邦人向けの雑誌制作を行う会社を立ち上げられており、実務家としての意識の高さ、日本に関する関心の高さを持って学びに来て頂いた。

制作をされているという雑誌に対しては、駐メキシコ大使でもいらっしゃる山田彰氏のインタビューを掲載するなど非常に精力的に活動され、多くの時間を割いて、編集・発行を行っていらっしゃった。

4月に本学にいらした際、大学には非常にリッチなデータベースがあり、ビジネス系だけでなくあらゆるジャンルの雑誌がオンラインで閲覧可能だが、それを紹介した際の寺本氏の関心の高さも、そうした立場を反映されていると感じさせるものだった。

少し日本語が聞き取りにくいというハンデもありながら、私が担当する消費者行動などの講義にも顔を出して頂き、学部生と共に聴講をするとともに、ゼミ生とも交流をして頂いたことはとてもありがたかった。

交流という面では、5月には学生との食事の場にも顔を出して頂き、寺本さん自作のメキシコ料理もご馳走になったほか、スペイン語を学んでいる学生とも交流をして頂いた。

また学内にいる語学を学ぶコミュニティにも足を運んで頂き、同様にスペイン語について学んでいる学生と交流もして頂いた。

レポートについては、正直に指摘をすれば、外部資料に頼る面も多かったが、指摘をした後には修正をし、自身から何度もレポートを提出頂いた。私がチェックできないときも、自分からレポートを作成・提出をして頂いたことに、寺本さんの学ぶ意欲が現れていた。

指導面においては、起業をした身ということもあってお忙しく、十分な時間をかけられたとは言えないところも多いが、メディアや雑誌について具体的な数字を次々に報告頂いたり、雑誌閲読とは一見関連の薄いであろうロイヤリティ・プログラムにも報告を頂くなど、多方面の調査・報告をして頂いた。

facebookなどで活動を拝見すると、ご自身の仕事、大学での学習の合間を縫って、観光をするなど、日本をとっても満喫していらっしゃるようだったが、ぜひ今回自分のものとした経験、人脈、知識など、様々なものを活かして、日本とメキシコの懸け橋になって頂けたら、と思う次第である。



アルゼンチン福岡県人会  
江口 イネス マリア

九州大学大学院 芸術工学府

## はじめに

私はアルゼンチンのラファエラ市出身の日系二世です。コルドバ国立大学で工業デザインを勉強して2013年に卒業しました。子供のころからエコロジーと工芸に興味がありました。祖母から折り紙を習っていたこともあり、日本の伝統工芸を勉強するため留学したいと思っていました。ラファエラ市では私の家族は唯一の日本人家族ですので、日本の文化をあまり知りませんでした。私のルーツを知るために、いつも日本に行きたいと思っていました。アルゼンチン福岡県人会、家族会と福岡県国際交流センターの皆さんのおかげで県費留学生として日本へくることができました。

## 毎日の生活

日本に来る前に日本語を自分で勉強したけれども、日本に来た時は日本語をあまり話せませんでした。したがって日常生活の簡単なことや大学の勉強はとても難しかったです。しかし三ヶ月もすると言葉がよく分かってきて生活にも少しなれました。そして親戚の方にとっても優しくしてもらいました。福岡はとてものんびりした所です。何でもあります。海と山が近いですし、公園とショッピングモールが多くて、人はとても優しいです。それに交通機関はとても便利です。アルゼンチンではバスはいつも遅いですし、ラファエラ市には電車と地下鉄がありません。

## 勉強のこと

九州大学の尾方先生には大変お世話になりました。お礼を申しあげたいと思います。いつも親切に対応してくれました。田村先生にも感謝しています。前期には、たくさん面白い授業がありましたがすべてデザインの授業は日本語でしたので、初めはあまり分かりませんでした。でも授業の後で私は先生たちにもう一回授業を教えてくださいました。前半には毎日大学に行って授業に出席して、ラボで尾方先生にいただいた勉強場所で勉強しました。

紙飛行機や本棚、子供の本を設計しました。あとのワークショップでこのプロダクトを作りました。毎日ワークショップに励みました。ワークショップは最高です。私はハンドワークこそストレスの解消法だと思います。ハンドワークが大好きでした。そして田村先生の英語のクラスを手伝いました。このクラスは、皆英語で話さなければなりませんでした。私はこの授業で逆に日本語をよく習うことができました。



後期には研究だけをしたので、大学へあまり行きませんでした。寮で勉強して研究しました。私の研究は福岡県の伝統工芸の調査です。職人の見学でたくさんのことを学びました。日本人の職人はほんとうに手先が器用で作り上げる製品は完璧です。

## イベントのこと

国際交流センターと家族会の方々には大変感謝しています。皆さんのおかげで日本文化を体験することができました。色々な伝統行事を体験して日本食をよく食べました。ブドウ狩り、稲狩り、竹の子堀り、ハイキング、温泉を経験し、着物の着付け・茶道体験、花火大会に行ったり、餅つきもしました。私の一番好きなイベントは着物の着付け・茶道とホームステイです。初めて着物を着て家族会と国際交流センターの方たちと、一緒に松風園へ茶道をしに行きました。正座は本当に痛いけれども儀式には感動しました。また、家族会の中垣さんの家で、ホームステイをさせてもらったこともあり、お世話になりました。いつも親切です。家族会の皆さんのおかげで私は母国のことがあまり寂しくありませんでした。

## 旅行のこと

私たち留学生の最初の旅行は、大阪でした。初めての旅行だったので、ワクワクドキドキして大阪を満喫しました。ユニバーサル・スタジオジャパンや難波、大阪城に行きました。ユニバーサル・スタジオには人がたくさんいました。疲れましたが本当に楽しかったです。大阪でカプセルホテルに泊まりました。始めは変な感じでしたが最終的に非常によかったです。

夏休みに名古屋に住んでいるアルゼンチン人の友達と一緒に、富士山に登りました。富士山に登ることは本当に難しいです。午後1時に登り始めました。午後7時から午前2時まで山小屋で休んで、4時半ぐらいに頂上に着きました。頂上は寒くて風が強かったけれども夜明けは本当にきれいでした。そして東京でたくさんの観光名所に行きました。ディズニーランド、東京タワー、東京スカイツリー、渋谷、上野、フジテレビと日本科学未来館に行きました。東京はすごく大きな町で楽しいですけれども、私は福岡のような町が一番住みやすいと思います。

秋に一人で京都へ行きました。初めは、ちょっと心配でしたが京都では、何も問題なく一人旅が出来ました。まず、十日間で京都と養老と倉敷と岡山に行きました。色々な観光名所へ行きました。とてもきれいでした！そして美術館や伝統工芸館に大学の研究テーマを勉強しに行きました。その美術館はすごく面白いです。日本中の伝統工芸品があります。

京都から養老公園にも行きました。養老町はちょっと遠いけれど、それだけの価値がある本当に美しいところです。山と滝があります。さらに養老公園の中に荒川修作氏がデザインをした養老天命反転地があります。素晴らしいと思います。

## 今後について

帰国してからも私はアルゼンチン福岡県人会の行事に参加していきたいと思います。福岡で出会った方々と今後も交流を持っていきたいと思います。また、九州大学で学んだことを母国に帰っても私の仕事で活かして行きたいと思っております。



九州大学大学院 芸術工学府

准教授 尾方 義人

(江口指導教員)

江口さんは、九州大学大学院芸術工学府コンテンツクリエイティブデザインコースの研究生として、在籍していました。工業デザインやグラフィックデザイン・日本語などの授業を多数うけ学習を遂行しました。私共の研究室は福岡・八女地域の伝統工芸を研究しており、伝統工芸の問題を「型」からのアプローチだけでなく、工業性からのアプローチとしてとらえ、八女における現場調査を行い具体的な分析を進めた研究を行っております。特に伝統工芸と地場産業の両方の側面からのアプローチの現場調査は十分な量があり、八女における地場産業課題資料としてもデザイン社会学というべき方法論をめざし、結果を無印良品で展示などを行っています。江口さんには数十回のそのための調査にも1度参加していただき日本の産業の現場を見ていただきました。

この交流事業自体は大変有意義なものであるかと思えます。この一年での文化経験を今後の活動に活かしていただければと思います。今後も多くの日系のかたが日本にくるといふ文化交流の機会を福岡県が提供していくことをのぞんでおります。



南加福岡県人会  
松井 エリック 武士

福岡工業大学短期大学部 ビジネス情報学科

## はじめに

皆さん、こんにちは。私の名前は松井エリックと申します。米国カリフォルニア州ロサンゼルス市から来ました。私の祖母のルーツは甘木です。そして、現在もそこに親戚が住んでいます。私は日系4世です。数年前から、私は南加福岡県人会のイベントに参加しています。私の祖父が福岡に留学するための奨学金制度について教えてくれたので、私は留学する機会を得ました。

日本に来る前に、私は自分のITサービスの会社で働いていました。今回の留学は、日本に住めるだけでなく、日本人がどのようにビジネスを行っているかを学習する良い機会になりました。それに加えて私の日本語能力を向上させるための絶好の機会となりました。

今回が、日本に初めてくるわけではありませんでした。特に福岡には、今まで何度か来たことがありました。例えば、いとこの結婚式に出席するためなどです。東京、京都、大阪、他の場所にも行きました。しかし、全て休暇のときでした。今回が長期間日本に住んだ初めての経験でした。

## 大学と研究

研究をするために、私は福岡工業大学に通いました。私はITスキルを向上させたいと思っていたので、ビジネス情報学科を選びました。私は日本人のプログラミングやプログラムの使用状況など、より詳しいスキルを学びたいと思っていました。私はいつもコーディングの方法を学びたいと思っていたので、基本的なJavaとC++言語を習得するためのプログラミングの授業を受けました。また、日本のマナーについても学びたいと思ったので、日本語表現法の授業を取りました。アドビ フォトショップ、イラストレーター、ドリームウィーバー、およびマイクロソフト パワーポイントのクラスも取りました。

しかし、時間がたつにつれて、日本の学校制度そのものに興味がわいてきました。アメリカの大学の授業に比べ、日本での授業ではより集中力が必要とされます。より短い時間で学ぶことができるので、私は日本の授業スタイルの方が好きです。日本では、すべてのクラスは、授業時間が決まっていて、毎週同じ曜日に同じ授業があります。アメリカで

は、授業の時間も曜日もその日によって変えることができます。アメリカでは、自分が希望すればより多くを学ぶことができます。結果として、たくさんの事を勉強するので私はその多くを忘れてしまいました。福岡工業短期大学の同級生達は、私の予想通り非常に親切で、私を楽しませようとしてくれてとても嬉しかったです。私は先生のゼミの学生から多くのことを教えてもらいました。彼らは19歳や20歳で、興味深い事が多くありました。私は彼らよりも29歳と年上でしたが、多くの楽しみを共有できました。

## 日本での生活

今回のように長く、別の国に住むのは私にとって初めてでした。私は自分は、非常に適応力も柔軟性もあると思っていたので、あまり心配はしていませんでした。幸いなことに、寮では県費留学生みんなと一緒に住んでいるので、非常に楽しい経験ができています。私たちは、一緒に外食をしたり、遊園地や、買い物に行ったり、寮でパーティーをしたりと、多くのことを一緒にしました。それ以外では、私は日本で受けることのできるサービスについて日頃から勉強をしていました。特にデジタルサービスについては私の研究にも関係があるので興味がありました。例えば、日本の携帯電話の文化やそれらが提供する様々なサービス、それとオンラインショッピング。また、同じ機械からホットとコールドドリンク両方が出てくる日本の自動販売機が印象的でした。クレジットカード、ICカード、携帯電話でも料金を支払うことができます。100円ショップは非常に便利で、多くのものを提供しています。また、コンビニエンスストアは、多くのサービスを提供し、24時間オープンしています。

## 楽しい事

あまりに楽しいことばかりだったので、ここでそれらのすべてを話すことはできません。福岡と全国の色々なところに行き、非常に多くの楽しい経験をしました。そのなかでも特に思い出に残ったいくつかのイベントや場所があります。そのうちいくつかのものは、家族会や県人会のイベントで、その他には我々自身でやりました。6月に、私たちは大阪を訪問しました。私たちは、市内のカプセルホテルに泊まりました。大阪城、ユニバーサルスタジオを見に行きました。私自身は、オタロードを訪問しました。ここはオタクのためのショッピング地区です。7月には、多くの海外県人会の子供たちが短期プログラムで福岡を訪れました。我々は、福岡県内の多くの場所に行ってきました。この期間中はグローバルアリーナに滞在しました。10月には、私たちは、天神でハロウィーンパーティーに行ってきました。11月には、私の母がアメリカから来たので、私たちは渋谷、東京に行ってきました。12月に、私たちは寮で少し早いクリスマスパーティーをしました。ま



た、家族会のイベントでは、着物を着て、茶道を体験しました。そして、年末に、私はコミケという世界最大のマンガイベントのために再び東京に行ってきました。私は色々と説明したいのですが、あまりにも伝えたいことが多くあります！

## 謝辞

私は福岡県国際交流センター、福岡県人会、大学の皆さん、福岡の親戚の皆さんに感謝しています。私の留学中に私を助けてくださいました。私は今までにない程自分の文化やルーツを身近に感じました。私は残りの時間を、できる限り多くの人々と一緒に過ごしたいと思います。





早いものでエリックが私の所に来て、もう一年近くになります。エリックは本学の科目等履修生としてプログラミングを始め、演習系の科目や体育などを履修しました。演習系の科目は、慣れない日本語による授業でレポートも沢山あり、交流行事の合間に仕上げるのが大変だったようです。体育ではバスケットが得意で、かなり年齢差のある学生に交じって奮闘する様子が面白く印象に残っています。

授業とは別に、私の教養ゼミにも度々参加してくれました。ゼミ生とはかなりの年齢差があり、お互いシャイな所があり、なかなか打解けず、私が困る場面も沢山ありましたが、本場の英語に触れ、ゼミの学生たちも大きな刺激を受け、良い経験になったと思っております。また、夏休みには、私の家で開いたバーベキューにも参加してくれ（写真）、焼き係として大活躍でした。シャイなエリックなので、日本や学校に関する感想も、そう多く聞くことは出来ませんでした。今回の経験がこれからのエリックの人生に大きな糧となってくれることを祈念致しております。





南加福岡県人会  
プリビ エミリー ジョン

九州大学大学院 人間環境学府

この一年間は本当に素晴らしい、忘れられない時間でした。去年の4月は不安でいっぱいでした。日本については、おいしいご飯、優しい人たち、自然がきれいな国、くらいは知っていました。日本はとても素敵な国です。ここはとてもユニークでスペシャルな国だと思います。今から私が感じた日本の素敵なところを話します。

今年は人生の中でベスト3に入る年でした。こんなに楽しい一年間は自分ひとりではできませんでした。たくさんの人たちにお礼を言いたいです。最初は福岡県人会にたくさんありがとうございますを言いたいです。国際交流センターの皆様は頑張って、たくさん私たちの事をサポートしてくれて、本当にありがとうございます。12月の茶道と着物体験もとても楽しかったです。抹茶が一番大好きな物なので、茶道を学ばせていただき感謝しています！

今回の留学で9人の県費留学生と一緒に過ごしました。県費留学生たちは色々な国から来ています。ブラジル、パラグアイ、メキシコ、アルゼンチン、ボリビアとペルー。みんなの国の文化をたくさん習いました。わたしたちのバックグラウンドはとても違いますが、みんなは同じルーツでつながっていて、とても面白いと思います。すぐに兄弟のようになって、一緒にたくさん福岡の自分のルーツについて知ることができました。

家族会のみなさんにとても「ありがとう」と言いたいです。たくさんいい思い出、経験と勉強ができたのは家族会のみなさんのおかげです。本当の家族のように、初めて会った日からとてもあたたかく、優しく面倒をみてくださいました。本当の家族のようにたくさんごはんをたべさせていただき、毎回お会いするたびに面白い経験をさせていただきました。家族会のみなさんとたくさんいい思い出を作りました。ゆかたを着て花火大会を見物したり、八女でお茶を飲んだり、竹の子を掘ったり、バーベキューを一緒にしたりしました。

家族や友達とはなれて暮らすのは初めてだったので、初めの一か月はとてもホームシックになりました。けれど、この気持ちは家族会の中垣様さん達のお家にホームステイした後にすぐなくなりました。初めてのホームステイでした。中垣さん達は自分の子供のように

私達を歓迎してくれました。とても優しく、笑顔のあふれる素敵な家族でした。初日に自分で育てたスイカを食べさせてくれました。スイカは私の一番大好きな果物です。美味しいスイカを食べて元気いっぱいになりました！美味しい夜ご飯を作ってくれて、朝に自分の庭からとったいろいろな野菜と果物を使って朝ごはんを作ってくれました。美しいバラ祭りに一緒に行って、いろいろな種類のバラの花を見て写真をとりました。本当に楽しくて、この日から日本は私の第二のふるさとになりました。

この一年間はとても幸運なことに、たくさんの新しい友達や小さいころの友達と再会しました。アメリカの友達12人が日本に初めて来たので、私はツアーガイドのように日本のいろいろな場所を見せてまわりました。私はこの一年間で日本の全部を見たいと思っていました。頑張って糸島、大分、北九州、久留米、佐賀、広島、宮島、大阪、京都、神戸、静岡、東京、千葉、北海道に行きました。たくさん面白い思い出があります。いろいろなごはんを食べましたが、福岡が一番ご飯が美味しいです。私は福岡のご飯は全部大好きです。もつ鍋、豚骨ラーメン、餃子、ウナギ、明太、焼き鳥は全部大好きです！でも一番好きなご飯は、ゴマサバと水炊きです！どちらも初めて食べました。今年は初めて寒い冬を経験しました。外が寒くて、雪や雨が降っているときに水炊きを食べるのは最高です！体がとても温かくなって、幸せなきもちです！福岡には面白い動物カフェ☺もありました。私はフクロウを頭の上において、あそびました！佐賀で初めてジップラインとバンジージャンプを経験しました。もしかしたらスカイダイビングより怖かったかもしれません！シルバーウィークに大分に行って、フェリーに乗り、小さい島に行って、海の横でキャンプをしました。ここは本当にパラダイスみたいでした。私は音楽が大好きなので、糸島のサンセットライブという、とても楽しいフェスティバルに行きました。海辺で行われたコンサートで、ここでたくさん友達を作って、夕焼けと花火を見ながらたくさん踊ったり、バーベキューをしました。もちろん日本でたくさん祭りにも行きました。金魚すくいやヨーヨー釣りで遊んだり、かき氷と焼き鳥をたくさん食べました。アメリカでは一回もバスと電車に乗ったことはありませんでしたが、この一年のおかげで、福岡や東京の電車の乗り方を人に案内出来ます！東京から福岡まで青春18きっぷを使ってバックパックしてまわりました。一週間くらいの旅でした。

私がこの一年間で学んだことは一生心に残るものです。たくさん素晴らしい友達を作って、たくさんいい人たちと会って、自分の家族ともいっばいいい思い出を作りました。忘れられない思い出です。一生この福岡での経験を覚えておきます。アメリカに戻って、家族や友達にこの経験を全部教えるのが楽しみです。皆様、この一年間どうもありがとうございます！







九州大学大学院 人間環境学府

准教授 プラサンナ ディビガルピティア

(プリビ指導教員)

九州大学人間環境学府では、都市共生デザイン専攻と空間システム専攻による両専攻連携型の「持続都市建築システム国際コース」（修士課程・博士後期課程）を新設し、平成22年4月より本コースによる教育研究を開始しました。本コースでは、英語授業による教育カリキュラムを通して、持続型の都市や建築の構築と運営に関する新しい学際分野の国際的な専門職業人および研究者を養成することを目標に掲げました。

地球温暖化や資源枯渇という環境問題に関連して、都市や建築の持続化や低炭素化が極めて重要な課題となっています。本コースの設置を新時代の要請にかなった教育システムの改革と捉え、従来からの専門教育に加えて、都市と建築の持続可能性という包括的視点からの新しい学際教育を留学生と日本人学生に提供できるように本コースの充実化を進めていきました。

この学際的教育の取組みは、エミリー・プリビさんを2015年4月の研究留学生として受け入れることを可能にしました。エミリーさんは研究留学生として一年間研究室の活動に参加しながら大学院の授業にも参加しました。私の講義以外にも、都市問題の背景や関連する専門分野を学ぶため、毎回専門分野の異なる講師によるオムニバス型の講義にも参加しました。その中で最も印象的でしたのは、オムニバス講義の内容と自分の考えをまとめたレポートでした。持続都市建築システムに関する幅広い専門的知識を有する高度職業人・研究者育成のためのこのプログラムは、エミリーさんの都市計画と建築の分野についての知識を広げたと思います。